

単元名 100を こえる 数

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 1000までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みを基にして、1000までの数を表したり読んだりできるとともに、1000までの数の大小を比べることができる。
- (2) 1000までの数について、10や100などを単位としてそのいくつかと見て表現したり、加減計算の仕方を考えたりすることができる。
- (3) 1000までの数について、数え方を工夫しようとしたり、十進位取り記数法のよさに気付いて生かそうとしたりする。

標準的な展開例

02040109_001

【準備等】計算棒、位取り板、お金の模型、p. 80・p. 81の数直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100を超える数について興味をもち、数え方を工夫する [p. 74～p. 76]</p> <p>○挿絵を見て、たくさんある星の数を予測する。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★100をこえる数のあらわし方やしくみをしらべていこう ○たくさんある場合の数え方を工夫して数える。</p> <p>2 空位のない3位数の表し方を知り、数の構成について考える。[p. 77]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★三百六十五という数についてしらべよう。</p> <p>○3位数の仕組みを知り、読んだり書いたりする。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 空位のある3位数の表し方を知り、数の構成について考える。[p. 78]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★10のたばがない数についてしらべよう。 ○十の位が空位になっている数について考える。 208</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 10を単位として、数の相対的な大きさについて考える。 [p. 79]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★10がいくつかあるかをもとに、数をしらべよう。</p> <p>○10を単位として、数の大きさをつかむ。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 1000までの数系列について考える。[p. 80]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★千という数についてしらべよう。 ○数の構成を考える。</p> <p>○1000より1小さい数を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめて数える操作により、1000までの数への動機付けを行う。 ・初めから「10のまとまりをつくってみましょう」と指示するのではなく、児童の考え方を大切にする。 ・10や100のまとまりを作ることで数えやすくなることを実感させる。 【評】100を超える数について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・数字の位置が百の位や十の位を表していることに注目させる。 ・単位とする数が10になると次の位に進むという十進位取り記数法の仕組みとよさを味わわせるようにする。 ・100を○個、10を○個、1を○個あわせた数という言い方をさせる。 ・十分に理解できていない児童には、位取り板を活用させ、位を意識させながら問題を解かせる。 【評】1000までの数について読んだり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・十の位や一の位が空位になっている数の構成を位取り記数法を基に考えさせる。 ・位取り板に計算棒を並べて、10の束が1つもないことを視覚的に捉えさせる。 ・具体的（計算棒）→抽象的（数字）という流れだけでなく、数字を見て計算棒を示す内容も取り扱うようにする。 ・「3けたの数」の意味を知らせる。「けた」という言葉が初めて登場する。1桁の数、2桁の数についても例を挙げて触れておく。 ・空位に気を付けて数字を読ませたり書かせたりする。 【評】1000までの数を読んだり、書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・10がいくつかという考え方は、児童がつまづきやすい。 ・お金の模型の操作→操作のイメージ化→相対的な見方というように段階を追って指導していく。 ・10円玉、100円玉を用いた数学的活動を通して考えさせる。 ・100円は、10円玉10枚分であることを押さえる。 【評】10や100を単位とした数の捉え方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・挿絵を見せながら、1000という数がどれくらい大きいか実感させる。 ・実際に工夫して数えて、1000を捉えさせる。 ・100を10個集めた数を確認させ、その数字を1000と書き、「千」と読むことを知らせる。 ・挿絵を見せ、星を一つ取り去った数を考えさせる。1000は999の次の数になることに気付かせる。 【評】1000という数を系列的に理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>6 1000までの数系列を数直線で考える。[p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 数の直線についてしらべよう。 ○ 数の並び方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>7 2つの3位数の大きさを比べ、不等号を使って表す。[p. 82]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 3けたの数の大きさのくらべ方を考えよう。 ○ 大小を考え、比べ方を説明する。 ○ 「>」, 「<」を使った表し方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 身の回りにある100から1000までの数の大きさ比べをする。 <p>8 練習問題に取り組む。[p. 83]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「れんしゅう」に取り組む。 <p>9 (何十) + (何十), (百何十) - (何十) の計算をする。[p. 84]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 10円玉をつかって、計算のしかたを考えよう。 ○ $80+30$, $130-90$ 10のまとまりを単位として計算し、解き方を説明する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>10 (何百) ± (何百) の計算をする。[p. 85]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 100円玉をつかって、計算のしかたを考えよう。 ○ $200+400$, $800-600$ 100のまとまりを単位として計算し、解き方を説明する ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 86・p. 87]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数直線と数の構成を合わせて考えさせる。 ・ 1目盛りが10の数直線の読み方を確認する。 ・ 数の系列を丁寧に指導する。 ・ 数がいくつずつ増えているか（1目盛りがいくつ）に着目させる。 ・ 数直線を使って、それぞれの数の位置を確かめさせる。 <p>【評】 1000までの数を数直線上に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形式的な操作で大小を考えず、量感を伴って考えるようにさせる。 ・ 何の位を見て比べれば判断できるのか、予想させる。 ・ 用語「不等号」は第3学年で扱うため、ここでは触れなくてよい。 ・ 上の位の数字から順に比べていけばよいことを押さえる。 ・ どちらが大きいとき、どちらの不等号を使うかを押さえる。 <p>【評】 数の大小関係を「>」, 「<」を使って表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を重点的に行う。 <p>【評】 1000までの数の構成や系列に関する問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 十円玉の個数が10のまとまりを表していることを初めに確認する。 ・ 十円玉の模型を使って、$80+30$の計算の仕方を考えさせる。 ・ 説明の苦手な児童には、教科書の例文に従って説明させるとよい。 ・ 10を単位にして（0を1つ取って）考えれば暗算で計算し、答えに0を1つ付ければよいことに気付かせる。 $80+30 \rightarrow 8+3=11 \rightarrow 80+30=110$ <p>【評】 10のまとまりを単位とする加法と減法の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 百円玉の個数が100のまとまりを表していることを初めに確認する。 ・ 百円玉の模型を使って、$200+400$の計算の仕方を考えさせる。 ・ 説明が苦手な児童には、教科書の例文に従って説明させる。 ・ 10円玉と同様に、0を2つ取って考えるとよいことを伝える。 <p>【評】 100のまとまりを単位とする加法と減法の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100を超える数について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】
 本単元は、百の位が導入され、1000までの数を学習する。十進位取り記数法に基づいた表し方、10や100を単位とした数の相対的な見方、数の大小比較、1000という数の意味、10や100を単位とする簡単なたし算、ひき算を学習する。
 本単元の学習は第1学年の「大きいかず」や本学年の「1000をこえる数」の内容が関連しているため、それらを踏まえた指導が必要である。